

滋賀県がん診療連携協議会・第1回相談支援部会

日時：平成29年6月22日（木）17：00～19：30

場所：県立成人病センター新館4階 講堂

（敬称職名略）

【部会長】成人病センター 山内、

【副部会長】大津赤十字病院 塘、

【部会員】滋賀医科大学附属病院 看護部 木村、

大津赤十字病院 がん相談支援センター 山本

成人病センター がん相談支援センター 岡村、

公立甲賀病院 がん診療部がん相談支援室 柴田、

彦根市立病院 がん相談支援センター 乾、市立長浜病院 がん対策推進室 橋本

高島市民病院 地域医療連携室 大塚、草津総合病院 患者総合支援局 吉村、

済生会滋賀県病院 がん診療支援センター 山田、

近江八幡市立総合医療センター 患者総合支援課 嶋田

長浜赤十字病院 がん診療支援室 寺村、

東近江総合医療センター 地域医療連携室 長岡、滋賀県薬剤師会 渡邊、

滋賀県歯科衛生士会 長谷川、

滋賀県がん患者団体連絡協議会 菊井、須藤（代：多田）

滋賀県健康医療福祉部 大井、成人病センター 嶋田

【事務局】成人病センター 地域医療連携室 柳

【欠席部会員】市立長浜病院 伏木、市立大津市民病院 地域医療連携室 山澤

滋賀県医師会 重永、滋賀県歯科医師会 柴田、

滋賀県看護協会 西村

【オブザーバー】

淡海かいつぶりセンター 宮本、梅花女子大学 原田 滋賀医科大学 木村

成人病センター 今西

1. 部会長あいさつ

（山内部会長）

（新任自己紹介）

2. 【報告事項】

(1)平成28年度セカンドオピニオン受入れ紹介状況について

平成29年度がん相談支援センター等がん相談窓口取り組み実施について

（事務局）

- ・平成28年度は他年度と比較して若干件数が減っているように思われる。セカンドオピニオンは悪性新生物での利用が多いことがわかった。大腸がん、膵臓がんの件数が多い。今後もこの調査を行

っていく。

- ・平成 29 年度がん相談支援センター等がん相談窓口の体制と取り組み実施について、相談員は 58 名おり、看護師 24 名、社会福祉士 21 名、事務 5 名、薬剤師 2 名、医療心理に携わるもの、医師、管理栄養士、臨床心理士、ソーシャルワーカー（上記以外）その他が各 1 名勤務している。平成 28 年度のがん相談件数は合計で 7693 件あった。取り組み状況はほぼ出来ている結果となった。

(2)PDCA サイクルについて

平成 28 年度がん相談後のアンケート集計表（4 月～3 月）

（事務局）

- ・平成 28 年度がん相談後のアンケートは 599 件提出あり。相談者の性別は女性のほうが多い結果となった。内容は役に立ったという声が 99%あり。自由記載では感謝の言葉が多かった。要望として平日だけでなく土日もしてほしい、精神的なケアもしてほしいなどがある。要望はメーリングリストでお知らせする。

(3)平成 29 年度近畿ブロック地域相談支援フォーラム相談員研修会

（成人病センター）

- ・平成 30 年 2 月 17 日に奈良の国際春日野フォーラム IRAKA で「よりよい相談支援の為の院内連携と稼働（仮）」のテーマで相談員研修会あり。県から後援をしていただきたい。協力者依頼あり。

(4)滋賀県がん患者団体連絡協議会の報告事項

（がん患者団体連絡協議会）

- ・がん患者サロン参加者が年々減少している。参加者、初参加者が少ないサロン責任者の要望にて、高島市民病院と市立長浜病院は参加数アップのモデルサロンとする。どのように参加者を増やすか検討する。高島市民病院では今年度から「滋賀の療養情報」にサロンの月別案内を折り込み、退院される患者さんに手渡しをしている。
- ・指導者を菊井、須藤、八木の 3 名とした。
- ・指導者 3 名が担当するサロンは指導者として参加するため交通費の支給を願う。
- ・ピアサポーター養成講座受講生募集している。
- ・AYA 世代の患者と再発転移の患者のサロンを開設予定。現在成人病センターでの開催を検討中。

(5)協議会事務局の報告事項

（協議会事務局）

- ・今年度もリレー・フォー・ライフ・ジャパン滋賀医科大学を平成 29 年 10 月 8 日（日）10 月 9 日（月祝）滋賀医科大学で開催予定。今年もがん診療連携協議会にブース出展依頼がある予定。依頼があれば例年どおり協議会として相談支援センターを PR するブースを検討している。その時は協力をお願いする。

(6)県の報告事項

(県健康医療福祉部)

- ・患者に患者会やサロンについて情報提供の目的で関係機関に協力していただき、集約を行った。公開してもいい情報は「がん情報しが」にリンクをはり情報提供を行っていきたい。相談の際にご活用していただきたい。
- ・情報の更新は特にきめていない。年度末は避けるようにする。

(がん患者団体連絡協議会)

- ・サロンなどの情報提供について、長期に行っているものは活動内容が把握できるが、新規のサロンは信用性など判断が難しいところがある。ホームページにアップする要件が必要では。

(山内部会長)

- ・滋賀にはないと思うが営利目的のようなサロンもある。そういうものをどう評価するか、問題である。今後メーリングリスト等を通じて議論させていただきたい。

3.その他

- ・妊孕性温存について 滋賀がん・生殖医療ネットワーク 木村先生
- ・家計プランについて 梅花女子大学 原田先生

(滋賀がん・生殖医療ネットワーク)

- ・滋賀がん・生殖医療ネットワークができて2年経過。がん患者の未来家族計画応援事業として、日本国内で初めてがん患者に対して妊孕性温存の場合には補助をする。滋賀医科大学附属病院産婦人科に個別に案件ごとに相談が可能。研修会を行い13施設938名が参加している。
- ・問診票でがん患者の妊孕性希望の有無を確認することはできないか。また希望する患者はがん相談窓口にて登録業務を行っていただきたい。

(滋賀医科大学附属病院)

- ・まだシステムが始まっているわけではない。どのようにすれば抜けなく情報提供ができるか検討中である。

(大津赤十字病院)

- ・全患者にカウンセリングができていないのが現状である。まずはワーキンググループで問診票の検討を行っていったらどうか。

(山内部会長)

- ・全部の施設で行うのは難しいと思われる。例えば成人病センターで行い、皆さんに集まってもらい検討するのはどうか。この件はまた相談させていただきたい。ワーキングを立ち上げるのはすばらしいことだが、日々お忙しい中、大変だと思われる。メーリングリストでディスカッションを行いたい。

(県健康医療福祉部)

- ・妊孕性温存については滋賀県が先立って行っている。今年度について、問診票はたたき台として県が作成する。ご意見をいただきたい。

(梅花女子大学)

- ・家計プランは一年間の事業である。7月から事業開始となる。
- ・経済的支援で困っていること、家計の自己点検においてどのような情報が必要か相談支援者聞かせていただきたい。
- ・患者会に、社会資源の社会保障制度の知識と活用に関することを患者より聞かせてもらう場を依頼した。
- ・相談シートの分析について。経済的な支援、相談項目など分析させてほしい。洗い出しを行い協議させてほしい。その後自己点検シートに関する意見をいただき、修正を行い今年度の修正案を仕上げていきたいと考えている。

(県健康医療福祉部)

- ・相談シートのデータを4月から6月分の相談状況を県のほうまで提出してほしい。

以上